令和８年度　第６回浄水地域会議　会議録

■ **日　時**　令和８年１０月１４日（水）　午後７時　～　８時

■ **場　所**　浄水交流館　大会議室

■ **出席者**

＜委　員＞	内迫　貴光	勝野　房則	上島　益美	桑原　正明
	権藤　國義	竹中　香織	手塚　俊雄	土田　眞矢
	土井　英二	長江　光一	野畑　安浩	森　直哉

＜交流館＞　土井　由利（浄水交流館　館長）

＜事務局＞　板倉　壮吾（地域交流課　副主幹）　吉村　直樹（地域交流課　担当長）
渡邊　洋一（地域交流課　主任主査）

■ **議事**

地域と若者のつながりづくりに向けたしくみの検討
（１）前回の振返り
（２）「二十歳のつどい」を活用したしくみの検討
（３）「マルシェ・お祭り」を活用したしくみの検討

■ **議事の概要**

「二十歳のつどい」や「マルシェ・お祭り」を活用した若者と地域とのつながりづくりについて意見交換を行った。

二十歳のつどいでは、前年度・当年度・次年度の実行委員同士のつながりを育みながら、そのつながりを起点として、若者が地域とゆるやかに関わり続けられるネットワーク・仕組みづくりの重要性が共有された。

また、マルシェ等を若者や地域住民が「やってみたいこと」を持ち寄り実践できる場として活用し、多世代交流や地域参加の促進を図っていく方向性を確認した。

■ **主な意見**

（二十歳のつどい）

- 若者と出会える貴重な機会である。実行委員として手を挙げてくれる子は前向きな子が多いので、まずは実行委員の子たちと地域がしっかりとつながって、その後の展開につなげられるとよい。
- 前年度の実行委員が当年度の実行委員をサポートする、次年度の実行委員も参加するような形が積み挙がっていけば、ネットワークも自然と広がっていくのではないか。
- 中学生も準備段階から関われるとよい。実際にボランティアで来ている中学生は、先輩たちの晴れ姿を興味深そうに見ており、よい刺激になっているように感じる。
- 若者に主体的に関わってもらうためには、大人が段取りを決め過ぎず、自分たちで考えたり決めたりできる余地を残しておくことが大事ではないか。
- 特に式典後のレクリエーションを楽しみにしている子は多い。実行委員も企画段階から楽しそうに取り組んでいる。今の良さは残しつつ、地域の人も若者の様子を見守ったり応援したりできるような関わり方があってもよいのではないか。

- 二十歳のつどいだけで終わらず、例えば「30 歳の同窓会」のような場を地域として定期的に企画してみるのも面白いのではないか。

（マルシェ等）

- 同じメンバーが運営を担う傾向があるため、新しい人が気軽に関われる入口や役割を意識してつくる必要がある。
- 若者向けの出店枠や企画枠があれば、「ちょっとやってみようかな」という参加のきっかけにもなるのではないか。
- 学年や同世代の仲間同士で参加できる仕組みがあると、一人では参加しづらい若者も関わりやすくなるのではないか。
- ゴルフボールがたくさん余っているので、パター体験のようなブースを出して地域に還元するのも面白そうである。子どもから高齢者まで楽しめる多世代交流の企画になり得る。

■　今後の予定

令和８年度第７回浄水地域会議

令和８年１１月１１日（水）午後７時～　浄水交流館大会議室